

総選挙の課題 <その2>

「いのち」を大切にする政治への大転換を！

コロナ対策にみる、スポラ！

パンデミック状態、PCR検査の手抜きをしたので、これからどうなるのか、科学的知軽視の対策だから見通せない。成り行き任せ。全てが遅い。何故だろうか？罹患者が多ければオリンピックはできなくなる。お祭り騒ぎで高揚作戦「心を惑わせ、政権を維持する「何とかなるさ」なのだろう。

暮らしが見通せない

職場・企業は存続の危機を訴えている。働くものはかたずを吞んで、不安な日々を送り、政治を見ている。大学は授業の開始、方法など、将来に不安を感じている。「ゴーツー〇〇」しか思い浮かばない政権には国民のいのちは任せられない。



忘れな草

歴史に真摯に向き合う

今の政権は明らかに、ファシショ化している。学問の自由への介入・排除は違憲の疑い。取り巻き、仲間内の犯罪や不正行為の擁護はナチスの手口。国会質疑でも説明せず、自分の意見だけ主張それで答弁というのでは、明らかに国会無視。政権を担う資格なし。

彼らは主権者ではない。基本的にはパブリックサービスである。国会では主権者たる国民の声に真摯に応える義務があり、与野党を問わない論戦の中で世論が形成されることこそ大切。このような政権をゆるしているのは国民の責任でもある。

私たちはあの戦争で、二度と戦争をしないと、誓いました。その「不戦の誓い」は私たち個人だけでなく、「国を上げて」の誓いでした。イデオロギーではなく、「いのち」の問題です。だから日本は世界の多くの国々から『平和の国』として信頼を得てきたのです。戦後、日本は表立って武力行使をしませんでした。しかし、朝鮮戦争や、ベトナム戦争ではアメリカに協力して、その片棒をかついできたのです。足を踏まれた側は痛みを感じ、思い出します。

ミャンマー(旧ビルマ)では国民が自国の軍隊に殺されています。日本はこの事態を一日も早く収束させる努力(経済・外交など)をしなければなりません。日本がどんな国を目指しているのか、この選挙で国民はどんな選択をするのか世界は、注視しています。私たちの一票は「いのち」を大切にすることをしなす。みんなにひと声をかけましよう。

公立刈田総合病院(以下:刈田病院)問題その3

「アベ・スガ政治」が、私たちのまちに・・・

子や孫、私たちの「いのち」を守る闘いは続く

1、『山田市長(管理者)就任、突然、公設民営化を主張、独断で進める』

刈田病院は県南中核病院と連携して経営改革を進めていくことが決定していた。突然、山田市長(管理者)は両副管理者(蔵王・セヶ宿町長)、東北大学、村井知事の見解・助言を無視、公設民営化を主張、独断で進める。

(1) <議会を中心に不文律を平気で破っていく権力の濫用始まる>

2016年11月14日山田市長就任、2018年度から3年間、白石市からの刈田病院への負担金を大幅削減(2018年度いきに6億円以上減額)し、意図的に経営悪化を助長させる。前後して市出向の職員の事務部長を突然解任、東京に本社を置く(株)ナショナル・トラスト(病院の再編などの業務)からA氏を事務部長に就任させる。これを境に山田市長は議会を中心に不文律であったものを平気で破っていく権力の濫用を始める。

(2) <禁じ手の専決処分で「民営化に向けた条例改正案」の成立を狙う>

昨年12月の白石市外二町組合の議会で指定管理者導入を可能とする議員提案(山田管理者側の議員による)の条例改正案が否決されたにもかかわらず、1月13日、その否決された同じ内容の条例改正案を専決処分で決め、2月3日突然同議会で専決処分を撤回した。更に3月31日同議会で条例改正されたものを管理者自ら廃案とした。混乱の極み、唾然とするばかりである。その間、両副管理者(蔵王・セヶ宿町長)は強く反発、議員の一部は、議会軽視を、病院組合は違法性を訴えた。その後、新聞報道によると両町長の同意を受け解散する方向性?(これが撤回の理由?)に向けて協議が続いているとのことだが、これが事実でないことが後でハッキリする。条例は元に戻り、民営化はできないということであり、今回の専決処分は違法である。専決処分が認められるのは、議会が機能しない場合などに限られ(地方自治法179条、180条)、今回は該当しないので、違法と考える。更に違法な専決処分は効力を有しない(千葉地裁平成19年3月9日判決)の判例があり、今回の「撤回」の処理も発生しない。

山田管理者、さすがに無理を通せないとの判断からか?

(3) <山田管理者の権力の濫用は続く、白石市外二町組合議会の一コマ>

それは、K議員の質問?質疑?「整形外科二人の辞職とその後の対応」から始まった。山田管理者は大橋院長に答弁を促す。大橋院長は答弁をためらう。そして固辞。M議長は休憩を指示。休憩を挟んで議場はしばし沈黙。それでも山田管理者は執拗に大橋院長に答弁を促した。ようやく大橋院長は手を挙げる、体を支えるように立ち上がり、答弁席で「私はわかりません」と強い口調で答えた。議場はピーンとはりつめる。・・・ちょっとまでよ、そもそも「整形外科の辞職」に関与したのは山田管理者だったのでは?じゃあ、答弁するのは山田管理者?それならM議長は山田管理者に答弁させるべきだよなあ?そういえばK議員、M議長は山田管理者の忠実な犬?そんなあやらせか?巷間、山田管理者の大橋院長いじめが聞こえてくるが、これって「公の場でのいじめ?」議会は「住民の生活と命を守るための政策」を真剣に議論する場、決める場である。しかし、その片鱗もない。議会は山田管理者によって私物化され、自分の意を何が何でも押し通すための「お山の大将の場」と化した。議会関係者の猛省を促す。山田管理者に

なって、やらせ質問、当局側（管理者、副管理者、院長・・・）のバラバラ感、管理者の独断が大きく目立つようになった。

2、『とにかく何かアクションを！ 公設民営化撤回の署名運動始まる』

山田市長の動きに、私たちの危機感は強かった。とにかく何かアクションを！！期せずして出てきたのが公設民営化撤回の署名運動だ。主催者での署名運動は初めて、当然、そのイロハを全く知らない。

そこで救世主となったのが、かねてより付き合いのあった県社保協のTさんである。彼の力に負うことは大きく、改めてこういう専門家の存在が私たちの市民運動に不可欠であること、更に運動に参加した女性陣には我々男性陣は押されっぱなしで、女性の力は運動の大きな推進力となった。1月17日から始まった署名運動は多くの住民（白石市、蔵王町、七ヶ宿町外）を巻き込み、2月26日第1回の集約（目標15000名分）で12013名分を集め、3月4日菅原代表と11人（女性が8人、男性が3人）が市長に直接手渡した。5月21日2回目の3526名分を総務部長に手渡した、合計15539名分となり、目標を超え署名運動は終わった。

3、『そもそも刈田病院問題、何で起こって？何で関わるの？』

（1）＜「地域医療構想」による病院の再編・改革＞

我が国の少子高齢化と人口減少を考えれば、限りある医療資源を効率的に提供する体制を確立することは喫緊の課題である。国は2014年6月成立の「医療介護総合確保促進法」で都道府県に「地域医療構想」の策定を義務付けた。現在、構想区域ごとに「地域医療構想調整会議」が設置され、病院の再編・改革の議論が行われている。

（2）＜世界も我が国も新自由主義に基づいた政策とその最中のコロナ禍＞

新自由主義と市場原理主義、緊縮財政が世界を席卷、医療（保健所、病院、医者・・・）や福祉関連の削減が徹底して行われてきた。日本も例外ではなく、病院の再編・改革は今も引き続き行われている。

その最中に、コロナ渦となった。「いのちか 経済か？」でコロナの政策が語られている。これはおかしい。「いのちと経済」は、等価ではない。国は、私たちを「いのちの危機」に晒しているのだ。抗い続けること。それしかない。

4、『知らない、知らされていない壊され続ける医療資源、1年で失った刈田病院の医療』

- （1）整形医常勤医不在により：通常の整形医療、骨折やけがの対応と手術、整形外科のリハビリテーション
- （2）麻酔科不在により：虫垂炎に代表される緊急手術の対応、交通事故や災害事故への緊急対応
- （3）循環器医師不在により：狭心症や心筋梗塞・血管（特に足）のカテーテル治療、心不全の治療や管理
- （4）外科医師の減員（7名→2名）：通常の手術、消化器・乳がん・頸部・甲状腺手術など、血管外科による糖尿病や透析の方を中心とした血管疾患の外科的治療や管理
- （5）病理医不在により：全国でも少ない病理医の常勤、正確な診断と速さが適切な治療へ、術中の病理診断は正確に悪性部分を取り除き、手術後の安心へ
- （6）外来診療の終了：それまで受診された方は他の病院へ紹介 心臓血管外科（大学で心臓の外科手

